



新幹線

シブカフセム

沿線5市が大集合!

武雄 嬉野
諫早 長崎 大村

第3回 新幹線5市サミット
九州新幹線西九州ルート
沿線5市交流シンポジウム



とき 7月29日(木)

ところ さくらホール

来場者 約560人

新幹線事業の主な概要

- 平成20年3月26日
武雄温泉～諫早間工事着工認可
- 平成21年4月1日
新幹線ルート確定
- 平成21年7月17日
鈴田トンネル工事安全祈願祭
※H22.7月末現在581m
- 平成22年3月
「大村市の新幹線開業に向けた基本方針」策定
- 平成22年4月1日
大村バスターミナル2Fに
長崎県新幹線用地事務所開設
- 平成22年4月
用地測量に関する地元説明会開始
- 平成22年7月23日
「大村市の新幹線開業に向けた基本構想」策定委員会設置
- 平成30年春
九州新幹線西九州ルート開業予定

◆基調講演



ほんこう ゆずる
本郷 譲氏
(JR九州 常務取締役)

九州新幹線(鹿児島ルート) 全線開通とまちづくり

昨今は海外、特に中国、韓国から東京や京都への観光客が増えています。このお客さまをどのように九州へ取り込むか。九州の温泉はどこにも負けません。温泉を活かして地域観光に結びつけるためにも、九州新幹線開通の重要性が高まっています。

地域振興の観点からいえば、駅より駅の周辺イメージが重要になります。官民一体となって、住んでよし、働いてよし、訪れてよしをコンセプトに、歩いて出られるまちづくりをすすめていく必要があります。鹿児島ルートは観光客が減らなかったのは駅周辺のエリアが魅力的だったからです。5市が連携して西九州ルートにおいても、駅に降りてみたくなる観光地としてのまちづくりを期待しています。

嬉野市 谷口市長



地域の宝を大切にしながらどう活かすか

唯一新しく駅ができる「嬉野温泉駅」だが、近隣市町と連携して駅を活性化させる使命がある。また、嬉野市には良質の温泉があるが、それぞれの地域の宝を再度見直し、5市でしっかりとネットワークを広げ連携し磨き上げていかなければならない。新幹線開業は一つのきっかけになるだろう。今後は、産業界の皆さんともネットワークを作り、官民一体となって盛り上げていかなければならない。

武雄市 樋渡市長



ITを活かした観光戦略を

武雄市は温泉と焼き物の町。それに付加価値を取り入れ、新幹線を活用していくことが重要だ。今流行りの情報携帯端末などを観光に活かし、ツイッターで口コミ的なリーダーの拡大を図る。ITをフル活用して観光戦略を図り、ある種の物語性をアレンジして、夢をかきたてる新幹線プロジェクトを沿線5市で連携して取り組んでいく必要がある。

◆パネルディスカッション

新幹線開業に向けた5市連携による取り組みについて

コーディネーター
菊森 淳文氏

パネリスト
樋渡 啓祐 武雄市長
谷口 太一郎 嬉野市長
宮本 明雄 諫早市長
田上 富久 長崎市長
松本 ともたか 大村市長

大村市 松本市長



新たな長崎街道でストーリーのある街へ

新幹線開業に向けて、沿線都市の広域的な連携プレーによる観光戦略が重要となる。例えば、長崎街道は5市すべてを通っているわけで、「シュガーロード」で取り組めたらと思う。また、独自のグルメや歴史などに磨きをかけほかの都市にはない特色を最大限に活かして、新しい長崎街道沿線5市でストーリーのあるまちづくりを市民とともに創り上げていきたい。

長崎市 田上市長



身近な西九州として顧客創造を

新幹線が開通すれば、関西や中国地方から多くの観光客が来るチャンスである。地方の文化は普段味わえない活用したい財産だ。その文化のおもしろさを発信し、新幹線に乗ってすぐ来れる身近な「西九州」としての位置づけに取り組みしていきたい。沿線5市が連携し、いろいろなアイデアを出し合いながら顧客の創造に取り組まなければならない。

諫早市 宮本市長



5市の特色を活かしながら広域的発展を

諫早市は県内の交通の要所として発展してきた。新幹線が開通すると交通ネットワークに強みが生まれる。これを利用して企業誘致や観光ネットワークを考えていかなければならない。歴史や文化、それぞれの特色を活かして沿線5市の連携を起点に、周辺部まで巻き込んだ広域的な発展につなげていきたい。そのためにも、長崎延伸を勝ち取りたい。



会場から質問する参加者

◆コーディネーター



菊森 淳文氏
(ながさき地域政策
研究所 常務理事)

今日は、5市の市長からいろいろな意見をお聞きしました。新幹線以前の問題として、これまで活かしきれなかった地域の宝、資源をどう活かすかという意見が多く出されました。今後は、既存の交通網と新たに加わる新幹線を結びつけていくさまざまな手法と発想が必要となるでしょう。また、イベントなどテーマを統一した広域的な観光、ストーリー性などを重視し、国内外の観光客から見ても魅力的な地域に映る取り組みを広げていくためにも、5市がしっかりと連携していく必要があると実感しました。